

# 春告草

第8号 令和2年7月15日 進路指導部発行

## 卒業生（5期生）から後輩へ —在卒懇で経験を伝える（第1回）

7月4日（土）の午後に今年の卒業生（5期生）19名を招いて「在卒懇（在校生と卒業生の進学懇談会）」が初めてオンラインで開催されました。在卒懇は「卒業生による大学入試研究会」とも呼ばれ、これから大学受験を迎える6年生（5年生）に対して、大学に通う卒業生が受験勉強の方法や大学選び、学部学科選びについて、体験に基づいてアドバイスをするという、先輩から後輩へ引き継がれてきた伝統的な進路行事です。今年はコロナウイルス感染防止の観点から、オンラインで会合を開きました。受験勉強については、最新の情報や方法論に基づく話を聞くことができ、これから受験期を迎える参加者にとっては、貴重な体験となりました。

懇談会は、A（人文・外国語・国際・教養）・B（法律・政治・社会学）・C（経済・経営・商学）・D（教育・家政・体育・芸術）・E（理学・工学）・F（生物・農学・医学・薬学・看護）の会場に分かれ、卒業生との懇談が行われました。どの会場も、在校生から数多くの質問があり、熱心に答える卒業生の姿が見られました。各系統ごと会の詳細を伝えます。

### 系統【A】人文・外国語・国際・教養

東京外国語大学国際社会学部 筑波大学人文・文化学部 上智大学文学部 京都大学文学部  
国際基督教大学教養学部 の大学生

#### 1 進学先（受験大学）を決めた理由・併願先などを教えてください。

- ・次世代留学でアメリカへ行き、ベトナム人の友達ができただけでなく、アジアが急成長している中で興味関心をもった。併願は早稲田（国際・文化構想）明治など。
- ・日本文学に興味があり、東京都だと東大か首都大くらいで選択肢があまりない。独り暮らしをしてみたくて筑波大学を希望した。
- ・親は国立を薦めたが自分としていきたいところは私立。自分の性格を考えても受験教科を絞ったほうが良いと考えた。奨学金を使って進学した。早稲田が第一志望で上智は併願校だった。
- ・数学があまりできなくて親は私文を薦めた。家からでて親元を離れたい気持ちもあった。併願校は早稲田など。
- ・国際教養学部で各学問の枠組みを超えて勉強できるのが良かった。

#### 2. 高校2年の時は何をしたらよいか？

- ・学校生活の行事を大切にしてほしい。最後まで学校行事などと勉強を両立させておいたほうがうまくいく。時間のやりくりをどうするかが大切。
- ・今はこれが一番大事、という気持ちをもってやる。私は部活が終わってから居残って勉強をするのをやめ、部活が大切な時は部活に集中した。自分にとって今一番大切なことは何かを考えて。
- ・6年の夏まで部活をやっていた。赤本（過去問題集）はそのあとで始めた。高2のころは英単語を頑張ってたっていた。部活が終わって残って勉強していた。一日15分でも、ちょっとだけでも勉強するのが大事。

#### 3 どのように受験勉強していたか。

- ・英語が苦手だった。数学など苦手なものがあったら、その比重があまり重くない学類を選ぶことができるが、英語だけはどの受験でも避けられない。早いうち（高校1、2年）から英語を苦手にならないように。
- ・英語で重要なことは英単語だと思う。意味や品詞などを確実に。高2の間はずっと英単語をやっていた。古文単語も同じだと思う。
- ・ダンスをやっていたが、高2から世界史は塾へ行って学んだ。英語は中学の時から英語塾へ。中3までにシス単は全部覚えた。英単語については、どんなに頑張っても分からない単語があるので、単語が置かれている

場所など周辺情報から意味を何となく類推できるようにするといい。

- ・6年生からは単語はほとんどやらず、長文ばかり読んでいた。受験直前まで単語をやるのではなく、長文を読みながら単語力がつく。外語大の過去問をやりながら単語を覚えた。
- ・すきま時間があつたら単語帳を見ること。ゆくゆくは過去問をしながら隙間時間で単語、とできるように今のうちから単語をやる。
- ・単語帳はあまりやらず、長文を読み語彙を増やし、同じ単語を2回目に見たら分かるようにしていった。
- ・受験勉強は「青天井」。終わりはないし、完成もない。

#### 4 理科基礎科目（地学基礎など）や数学などは自力でやるのは難しいか？

- ・空手の「型」を覚えるように薄い問題集などを何周もやって、先生にとことん質問して学習するとよい。
- ・次世代で留学していて数学が抜けてしまって困った。帰国してわからない分野があり、朝7時にきて一時間くらい数学をやっていた。
- ・抜けている単元を知り、教科書レベルの問題をまずできるようにする。それから教科書～平均レベルの問題ができるように、「こういう問題なら、こう解く」という方法論を身に付け、使えるツールを増やすこと。
- ・問題文を正確に読んで、丁寧に1点でもいいから途中点をもぎとれるようにする。
- ・2次試験まで数学があつても、全体の合計点が合格点がとれればいいので、そこまで数学をとらなくてもよい大学もある。苦手でもあきらめない。

#### 5 志望校が決まらないが、今の実力と差があるところを選んで親ともめないか？

- ・親には「無理じゃない！」と言われた。高2の夏のオープンキャンパスに行き、「早稲田に行きたい」と心が決まったが親は「まじか？」という感じだった。でも自分の今のレベルと比べなくてよいと思う。現役生は未知数なのであきらめずに。目標にする分はタダだし、訳が分からないくらい伸びる人もいる。志望校を自分で口に出して自分でプレッシャーを与えるといい。
- ・志望を下げるのはいつでもできるし、簡単。でも上げてそれをキープしていくのが勉強の推進力になる。
- ・100点を目指せば90点とれる。でも最初から90点目指していても90点とれないかもしれない。目標を下げて勉強したら、そこまで届かないことがある。志望は高く持つ方がいい。
- ・私は親には「無理でしょ」と言われるのがいやで頑張った。でも直前までサポートしてくれるのは親。

#### 6 英単語小テストで頑張るが終わるとすぐ忘れてしまう。どう勉強したらよいか？

- ・小テストは先生たちが提示するペースで、それと自分のペースは違う。自分のペースで最初からしっかりやり、自分で単語を使いこなせるように。
- ・単語は読んでいる時に理解できる程度でよいか、アウトプットで使いこなせるようになるくらい覚えるべきか。小テストはアウトプットできるようにという目的でつくられている。
- ・6年の受験期直前にはやらなければならないことが多過ぎるから、単語は今のうちにしっかりやっておくべきである。

#### 7 塾や通信教育などはどうやって選んだか。独学と比べてのメリットやデメリットは？

- ・塾は行っていたが勉強の中心は学校だった。
- ・塾中心だった。教え方は体系的で、早いペースで教えてくれる。インプットとしてはよいがそのようにひたすら詰め込みすぎてもバランスが悪い。意識的に質問等をするとうい。また塾で勉強しても学校でもしっかり勉強する。受験は個人の戦いだが、自分の作った解答を人に見てもらうなどは大切。
- ・学校の自習室はよく使っていた。学校のメリットはお金がかからないことと、分からないことを遠慮せずに聞けること。学校は頼れる人がいる。
- ・過去問をやつて、学校でみてもらえた。学校のほうが人がいて、不安を共有でき、孤独にならなかった。塾へ行くことを目的化しないで自分のものにするとうい。
- ・トフルゼミナールの外大対策コースへ行っていた。自分の目標にストレートにあつた大学受験対策をしていた。でもセンターの前日まで学校で勉強していた。一緒に勉強できる仲間がいた。
- ・高3の9月から塾へ行った。私文を選び経費がかさんだが、塾の夏季講習体験に参加して情報量などが多く、ためになった。少人数クラスで先生との距離もなくインプットははかどつた。自習は学校と一緒に友達と勉強した。やる気のないときなどお互い助け合い、学校のコミュニティーの中で自分を高めることができた。

他にも「志望校はいつまでに決めたらよいか」に対して、「高2の終わりごろから高3」や「第一志望校宣言を出すのでそれまでに高2の時期はオープンキャンパスなどで情報を集めたり、大学を体感できるとよい」「勉強したいことややりたいことをグーグルなどで大学と関連付けて調べる。大学のオープンキャンパスや授業などのコンテンツがオンラインであるので見てみよう。」等のアドバイスがあつた。